

## 胎内市立中条中学校



学校データ
【学級数】
15 学級
【児童生徒数】
366 人
【地域コーディネーターの有無】
有

## まちづくり会社中条中学校社の挑戦

### 1 はじめに

胎内市教育の基本理念「教育は人をつくり、地域をつくる崇高な営み」のもと地域とともに歩む学校づくりを目指し、胎内市立小中学校はすべてコミュニティー・スクールとなった。令和2年度初からコミュニティー・スクールに指定された当校では、学校運営協議会の設置と地域学校協働活動を推進し充実に努めている。学校運営協議会では、委員と教職員、生徒とで熟議を行って目指す生徒の姿を明確にし、教育課程に位置付けている。

＜コミュニティー・スクールで  
目指す生徒像＞

- 地域と積極的に関わる生徒
- 自分や学校、地域の良さが分かり発信できる生徒
- 明るく元気で、自分も他人も大切にする生徒

### 2 取組の実際

#### (1) 地域学校協働活動の推進

当校は地域学校協働活動をとおして、地域と学校の Win-Win の関係の構築を目指している。学校が地域に求めることと、地域が学校に期待することを整理し、「特別活動」や「総合的な学習の時間」の枠組みの中で「できることから始めよう」と取り組んだ。また、多様なステークホ

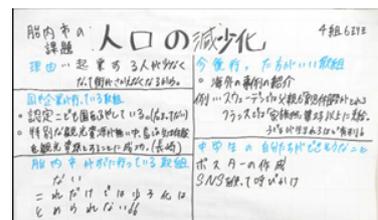
ルダー（利害関係者）と協働して、学校と地域双方の課題を解決しようとする意図もあった。

#### (2) 3 学年『まちづくり会社中条中学校社』の挑戦

総合的な学習の時間3年間の集大成として、「地域への貢献」をテーマに取り組んだ3学年の学習について紹介する。

##### ① SDG s からの出発

課題解決のための世界共通の目標 SDG s が遠い世界のことでなく、私たちの生活に密接に関係していることに気付くことから学習が始まった。SDG s を視点に、世界から日本へ、そしてふるさと胎内市へと目を移し、それぞれが抱える課題と中学生に何ができるのかを話し合い、焦点化していった。



##### ② 「本町通商店街」の賑わい創出

郊外の大規模な商店に客足を奪われ活気が失われ、休日の人通りもほとんどない中条地区本町通商店街。全国的にもまちなか商店街の衰退は自治体の課題ともなっている。「本町通商店街」の賑わい創出という難題に向き合った『まちづくり会社中条中学校社』は「まちあるき」という商品を売り出

すことにした。商品は、4クラスそれぞれでテーマを決め開発を進めた。

- 1組「宿場町探検コース」
- 2組「Walking 胎内～見て、撮って、食べて、感じる本町の魅力～」
- 3組「水の町、中条の町、水路巡り」
- 4組「誰か来て！胎内～イザベラの聖地きになるよね～」

各クラスで生徒の興味関心を活かして役割を分担し、準備を進めた。

<役割分担（協力団体）>

- ガイド班（「路地連胎内」）
- Web・フライヤー班  
（NPO法人「ヨリシロ」）
- フード班（弁当開発）  
（「南都屋」「常の家」「魚太」「ときや旅館」）
- ④フォト班  
（「ティーネットエンタープライズ」）
- ⑤PVプロモーションビデオ班  
（胎内市観光協会）

③ まちあるき

11月21日（日）はこの時期には珍しく晴天に恵まれ、事前予約で受け付けた80名近くの参加者を得て実施した。

新型コロナウイルス対策のため、生徒によるガイドは中止した。そのかわりに、生徒が作成した原稿とPVを使って、有志の大学生等のボランティアガイドの活躍で実施することができた。



3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

【参加者の評価】（%）

Q1 まちあるきの感想

満足 95.2 やや満足 4.8 不満 0

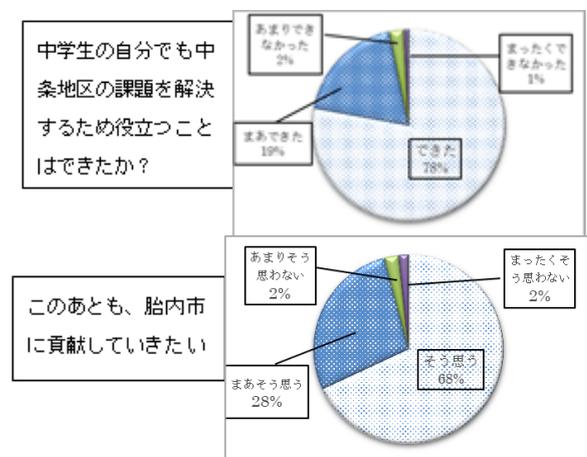
Q2 胎内市をまた訪れたいか

近いうちにまた訪れたい 67.7

機会があれば訪れたい 22.6

- 中学生の頑張りが地域の原動力になっています。
- 自分の住んでいるところが一層好きになりました。

【生徒の評価、育成された資質能力】



- 中学生でも、みんなで考えて大人の協力を得て実行すれば、大人顔負けのイベントができることが分かりました。
- 胎内市の良さを伝えているうちに、理解ももっと深まって、この先も胎内市と関わっていきたいという気持ちが強くなりました。

4 おわりに

様々なステークホルダーが次々とながっていく様子は、大人も生徒も、互いの可能性や希望を見だし、信頼し合って目標に向かっていく姿だった。

学校と地域が目標を共有し互いにできることに主体的に取り組む「社会に開かれた教育課程」に基づく活動が、「持続可能な社会の創り手」を育て未来を拓いていくと信じている。